

信仰の父

創世記一五章

アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。(6)

約束された跡継ぎがなかなか与えられない中で、主はもう一度、神の約束を信じるように促されました。その神の語りかけに対して、「アブラムは主を信じた」のです。目に見える保証など何もありません。ただあるのは神の約束の言葉だけです。その神の言葉を唯一のより所としてアブラハムは信じました。旧約聖書において、「信じる」という言葉はここに初めて登場します。のちに「信仰の父」と呼ばれるようになったアブラハムの原点は、神の言葉を真実なものとして受け入れたところにあります。このような御言葉への揺るぎない信仰こそ、福音的信仰の根幹となりました。そして「主はそれを彼の義と認められた」のです。私たちもこの信仰に立とうではありませんか。状況によって御言葉を否定するのではなく、神の語りかけを信じ抜いたアブラハムの信仰を受け継ぐ者として。